

単元デザイン FIRST STEP —小学校算数科—

1 単元デザインは何のため？



- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、単元（複数単元）の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。

2 単元デザインの進め方

① 単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を設定します。

- ・「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編」(以下、学習指導要領解説)に示されている内容を確認し、単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にします。
- ・児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて設定します。



② 単元の評価規準を作成します。

- ・学習指導要領解説の「2 内容」や『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(以下、「参考資料」)の「内容のまとまりごとの評価規準(例)」、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準(例)」等を参考にし、単元の評価規準を作成します。



③ 単元の指導と評価の計画を作成します。

- ・単元の目標を達成するために、児童が働かせる**数学的な見方・考え方**を明確にし、どのような**数学的活動**を行うのかを考えます。
- ・単元の目標、評価規準を基に、評価場面と評価方法を計画します。
- ・単元末に、学習内容を適用して問題を解決する場面を設定し、児童に身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかを確認します。



上記の手順を踏まえた、単元デザインの具体(例)を次に示します。

【例】第6学年「円の面積」

① 単元を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、単元の目標を設定します。

学習指導要領解説に示されている内容(p.296～)

B (3)円の面積

- (3) 平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 円の面積の計算による求め方について理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (ア) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。



アには「知識及び技能」に関すること、イには「思考力、判断力、表現力等」に関することが書かれています。「学びに向かう力、人間性等」については、算数科の当該学年の学年目標に示された内容を基に作成します。



単元の目標

- (1) 円の面積の計算による求め方について理解し、円の面積を求めることができる。 【知識及び技能】
- (2) 図形を構成する要素などに着目し、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 円の面積について、既習の求積可能な図形の面積の求め方に帰着して考えると面積を求めることができるというよさに気づき、見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしていたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】

② 単元の評価規準を作成します。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①円の面積は、(半径)×(半径)×(円周率)で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。 ②公式が半径を一辺とする正方形の面積の3.14倍を意味していることを、図と関連付けて理解している。 | ①円の面積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりしている。 ②円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。 | ①円の面積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ②半径の長さが分かれば、公式に当てはめることで円の面積を求めることができるというよさに気付いている。 ③円の面積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。 |

③ 単元の指導と評価の計画を作成します。

単元の指導と評価の計画(全7時間)

【指導に生かす評価(●)】【記録に残す評価(○)】【②の「単元の評価規準」に示した各観点の評価規準(①～③)】

| 時間 | ねらい(目標) ●学習活動 | 評価規準 | | | 評価方法 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------|--------|---------------|
| | | 知 | 思 | 態 | |
| 1 | 円の面積の求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。 ●既習の求積可能な図形の面積の求め方を振り返り、円の面積の求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。 単元の課題:円の面積の求め方について調べていこう。 円の面積の大きさの見直しをもつ。 ●円に内接したり外接したりする正方形を基にして、円の面積は、一辺の長さが半径に等しい正方形の面積の2倍と4倍の間にあると捉える。 | | ● ① | | 行動観察 ノート分析 |
| 2 | 円の面積の求め方について考え、円のおよその面積を捉える。 ●方眼紙に円を作図して、円の内側にある正方形の個数を数えたり、円を中心から等分して、三角形に近い形をつくったりして、円のおよその面積を捉える。 ●円の面積は、一辺の長さが半径に等しい正方形の面積の約3.1倍になることに気付く。 | | ● ① | | 行動観察 ノート分析 |
| 3 (本時) | 円の面積の求め方について考え、円の面積を求める公式を導く。 ●円を中心から等分して並べ替え、長方形に近い形を作り、円の面積の求め方を考える。 ●式を読んで、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、振り返って考え、円の面積を求める公式を導く。 | ● ① | ○ ② | ○ ① | 行動観察 ノート分析 |
| 4 5 | 円弧を含む複合図形の面積の求め方について考える。 ●既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に、複合図形の面積の求め方について考えたり、説明したりする。 | ● ① | ○ ① | | 行動観察 ノート分析 |
| 6 | 単元の学習内容についての定着を確認し、理解を確実にする。 ●様々な問題に取り組み、単元の学習内容を振り返る。 | ● ① ② | | ○ ② | ノート分析 |
| 7 | 単元の学習内容についての定着を確認する。 ●テストを通して、単元の学習内容を振り返る。 | ○ ① ② | | ○ ③ | ペーパーテスト |

学習内容の動機付けをする場面(第1時)

●既習の求積可能な図形の面積の求め方を振り返ることで、円の面積の求め方について調べていこうとする単元の課題をつかむことができますようにします。

知識及び技能を習得する場面(第2・3時)

●円の面積の求め方について考える活動を設定し、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に、円の面積を求める公式を導くことができますようにします。

習得した知識及び技能を活用する場面(第4・5時)

●円弧を含む複合図形の面積の求め方について考える活動を設定し、習得した円の面積を求める公式や既習の求積可能な図形の面積を求める公式を活用して考え、図や式を用いて説明することができますようにします。

単元の学習内容を適用して問題を解決する場面(第6時)

●単元の学習内容についての定着を確認するための問題に取り組み、単元の学習内容を振り返ることができますようにします。

数学的な見方・考え方とは？

「①事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、②根拠を基に筋道を立てて考え、③統合的・④発展的に考えること」

学習指導要領解説 p.23

- ①…「数に着目する」「数で表現する」「量に着目する」「図形に着目する」「数量や図形の関係に着目する」など
- ②…「帰納的に考える」「順序よく考える」「根拠を明らかにする」など
- ③…「関連付ける」「既習の事柄と結び付ける」など
- ④…「適用範囲を広げる」「条件を変える」「新たな視点から捉え直す」など

文部科学省 教育課程部会 算数・数学ワーキンググループ(第8回) 配付資料 参考資料2

数学的活動とは？

「事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること」

学習指導要領解説 p.23

- 数量や図形を見だし、進んで関わる活動
- 日常の事象から見だした問題を解決する活動
- 算数の学習場面から見だした問題を解決する活動
- 数学的に表現し伝え合う活動

学習指導要領解説 p.75

本単元における数学的活動で働かせたい数学的な見方・考え方

- ①…「第5学年までに学習してきた基本図形の求め方に帰着する」「図形を構成する要素などに着目する」
- ③…「既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりする」「式を読んで、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、振り返って考える」「公式を読むことで、円の面積が半径を一辺とする正方形の面積の3.14倍であることに気付く」

学習指導要領解説 pp.297-298 を基に作成

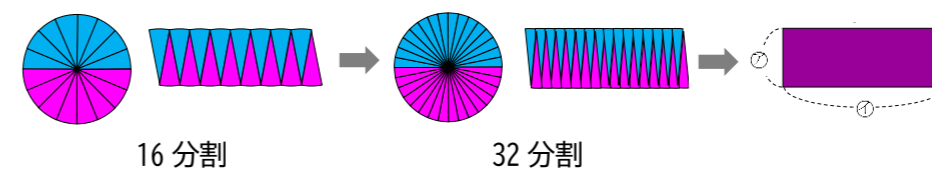
第6学年の目標及び内容【数学的活動】

- (1) 内容の「A 数と計算」、「B 図形」、「C 変化と関係」及び「D データの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
- ア 日常の事象を数理的に捉え問題を見だし解決し、解決過程を振り返り、結果や方法を改善したり、日常生活等に生かしたりする活動
 - イ 算数の学習場面から算数の問題を見だし解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動
 - ウ 問題解決の過程や結果を、目的に応じて図や式を用いて数学的に表現し伝え合う活動

学習指導要領解説 p.314

数学的活動 イ 算数の学習場面から算数の問題を見だし解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動の例

(ねらい①)円の面積について、円を中心から等分して並べ替え、等分を細かくしていけば、長方形に近づくことを捉えること。



(ねらい②)長方形の面積を求める公式を基に、円の面積の求め方を式に表すことができるようにすること。その際、長方形の縦の長さがもとの円の半径に、横の長さは円周の長さの半分になることを振り返って考え、式を簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

学習指導要領解説 pp.297-298

「B 図形」の(3)の指導における数学的活動です。学習指導要領解説の「各学年の目標及び内容」の後にも「数学的活動」の事例が示されていますので、数学的活動を行う際の参考にします。



単元における評価場面の設定等については、佐賀県教育センターWeb「[学習評価 FIRST STEP](#)」や「[学習評価の進め方](#)」を御参照ください。

小学校第6学年 算数科学習指導案

1 単元名 円の面積（わくわく算数 6(608) 啓林館）

2 単元について

(1) 単元観

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編の第6学年の内容「B図形」(3)に示されていることを受けて、本単元では、三角形や四角形など直線で囲まれた図形の面積の求め方や円周の長さの求め方を活用して、曲線で囲まれた図形の面積を工夫して測定する能力を伸ばすとともに、円の面積を求める公式をつくる活動を通して、算数として簡潔かつ的確な表現へと高める能力を一層伸ばすことをねらいとしている。

また、単元全体において、児童同士で説明する活動や話し合う活動を位置付けることで、それぞれの考え方の図や式を読み、考え方のよさに気づき、自分の考えを筋道立てて説明できる力を育てることが大切である。

(2) 児童観

（略）

(3) 指導観

指導に当たっては、円の面積を求める際に、既習の長方形、三角形、平行四辺形などの面積の求め方を基に考えることができるようにする。学習内容の動機付けをする場面（第1時）では、既習の求積可能な図形の面積の求め方を振り返ることで、円の面積について調べていくという単元の課題を設定する。知識及び技能を習得する場面（第2・3時）では、円の面積の求め方について考える活動を設定する。その際、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に、円の面積を求める公式を導くことができるようにする。習得した知識及び技能を活用する場面（第4・5時）では、円弧を含む複合図形の面積の求め方について考える活動を設定する。その際、習得した円の面積を求める公式や既習の求積可能な図形の面積を求める公式を活用して考え、図や式を用いて説明することができるようにする。単元の学習内容を適用して問題を解決する場面（第6時）では、単元の学習内容についての定着を確認するための問題に取り組み、単元の学習内容を振り返ることができるようにする。

3 単元の目標

- (1) 円の面積の計算による求め方について理解し、円の面積を求めることができる。
- (2) 図形を構成する要素などに着目して、求積可能な図形に帰着させ、基本図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。
- (3) 円の面積について、既習の求積可能な図形の面積の求め方に帰着して考えると面積を求めることができるというよさに気づき、見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしたりしている。

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①円の面積は、(半径) × (半径) × (円周率) で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。</p> <p>②公式が半径を一辺とする正方形の面積の 3.14 倍を意味していることを、図と関連付けて理解している。</p> | <p>①円の面積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりしている。</p> <p>②円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。</p> | <p>①円の面積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p> <p>②半径の長さが分かれば、公式に当てはめることで円の面積を求めることができるというよさに気付いている。</p> <p>③円の面積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。</p> |

5 単元の指導と評価の計画

〔指導に生かす評価(●)〕〔記録に残す評価(○)〕〔4の「単元の評価規準」に示した各観点の評価規準(①～③)〕

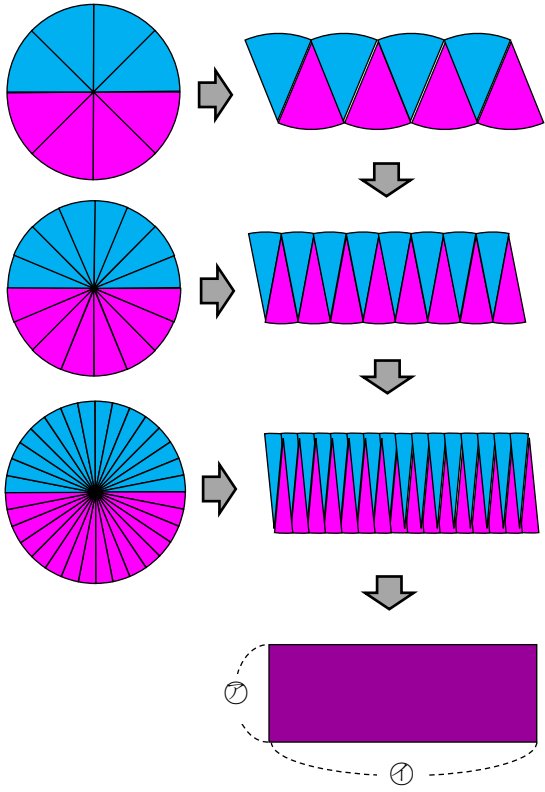
| 時間 | ねらい(目標) ●学習活動 | 評価規準 | | | 評価方法 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|--------|---------------|
| | | 知 | 思 | 態 | |
| 1 | <p>円の面積の求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。</p> <p>●既習の求積可能な図形の面積の求め方を振り返り、円の面積の求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 単元の課題: 円の面積の求め方について調べていこう。 </div> <p>円の面積の大きさの見通しをもつ。</p> <p>●円に内接したり外接したりする正方形を基にして、円の面積は、一辺の長さが半径に等しい正方形の面積の2倍と4倍の間にあると捉える。</p> | | ● ① | | 行動観察 ノート分析 |
| 2 | <p>円の面積の求め方について考え、円のおよその面積を捉える。</p> <p>●方眼紙に円を作図して、円の内側にある正方形の個数を数えたり、円を中心から等分して、三角形に近い形をつくったりして、円のおよその面積を捉える。</p> <p>●円の面積は、一辺の長さが半径に等しい正方形の面積の約3.1倍になることに気付く。</p> | | ● ① | | 行動観察 ノート分析 |
| 3 (本時) | <p>円の面積の求め方について考え、円の面積を求める公式を導く。</p> <p>●円を中心から等分して並べ替え、長方形に近い形を作り、円の面積の求め方を考える。</p> <p>●式を読んで、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのか、振り返って考え、円の面積を求める公式を導く。</p> | ● ① | ○ ② | ○ ① | 行動観察 ノート分析 |
| 4 ・ 5 | <p>円弧を含む複合図形の面積の求め方について考える。</p> <p>●既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に、複合図形の面積の求め方について考えたり、説明したりする。</p> | ● ① | ○ ① | | 行動観察 ノート分析 |

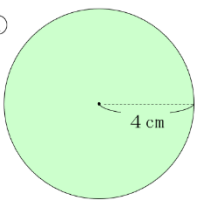
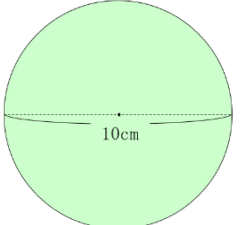
| | | | | |
|---|-----------------------------------------------------------|-------------|--------|---------|
| 6 | 単元の学習内容についての定着を確認し、理解を確実にする。 ●様々な問題に取り組み、単元の学習内容を振り返る。 | ・ ① ② | ○ ② | ノート分析 |
| 7 | 単元の学習内容についての定着を確認する。 ●テストを通して、単元の学習内容を振り返る。 | ○ ① ② | ○ ③ | ペーパーテスト |

6 本時の目標

円の面積の求め方について考え、面積を求める公式を導く。

7 本時の展開 (3/7)

| | 学習活動 | 指導上の留意点と評価（*留意点 ・評価【評価方法】） |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導 入 | 1 問題をつかむ。 2 めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 円の面積を求める公式をつくろう。 </div> | *前時の学習を振り返り、半径10cmの円のおよその面積は半径を一辺とする正方形の面積の約3.1倍になったことを確認する。 *児童の言葉を基に、めあてをつくる。 |
| | 3 見通しをもつ。  | *図形の一部を変形したり移動したりして、計算による求積が可能な図形に等積変形することで、円の面積も計算によって求められることを予想できるようにする。 *「切る」「等分する」「動かす」など、解決の見通しにつながる児童の発言を板書する。 *円を長方形に等積変形する過程が分かるデジタルコンテンツを活用し、円を中心から等分して並べ替えると、長方形に近い形に近づくことを視覚的に捉えることができるようにする。 *円を等積変形してできた長方形の縦の長さ⑦と横の長さ⑧がもとの図形のどこの長さに当たるのか調べることで、円の面積を求められることを図で示しながら確認する。 *全体で、長方形の縦の長さ⑦がもとの円の半径の長さと等しくなることを共有することで、横の長さ⑧が、もとの円のどこの長さに当たるのかに着目して考えることができるようにする。 |
| 展 開 | 4 自力解決に取り組む。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【予想される児童の反応】 ア 長方形の面積＝縦×横 円の面積＝半径×円周の長さの半分 </div> | *児童が必要に応じて、円を長方形に等積変形する過程が分かる具体物や見通しをもつ際に使ったデジタルコンテンツを活用できるようにする。 *自力解決の途中で友達の考えを聞いて、自分の考えに付け加えたり、新しい考えを書き加えたりしてもよいことを伝える。 |

| | | |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 展 | <p>イ 長方形の面積＝縦×横 円の面積＝半径×円周÷2</p> <p>ウ 長方形の面積＝縦×横</p> <p>円の面積＝半径×円周×$\frac{1}{2}$</p> <p>＝半径×直径×円周率×$\frac{1}{2}$</p> <p>＝半径×直径×$\frac{1}{2}$×円周率</p> <p>＝半径×半径×円周率</p> <p>など</p> | |
| 開 | <p>5 クラス全体で学び合う。</p> | <p>* 図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積を基に説明することができるようにする。</p> <p>* 面積の求め方の表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができるようにする。</p> <p>* 式をどのように変えたのかという根拠や式を変えた理由などについて発問したり、思考の流れが分かるように板書を工夫したりしながら、簡潔かつ的確な表現である公式のよさを意識できるようにする。</p> <p>・ 思②円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・ノート分析】</p> <p>・ 態①円の面積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・ノート分析】</p> |
| 終末 | <p>6 学習したことをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>円を切って動かして長方形にして考えることで、円の面積を求める公式をつくることができる。</p> <p>円の面積＝半径×半径×円周率</p> </div> <p>7 適用問題を解く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  <p>4 cm</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>②</p>  <p>10cm</p> </div> </div> <p>8 振り返りをする。</p> | <p>* 学習のめあてを再度確認し、学習過程を振り返ったり、児童の発言を取り上げたりしながら、分かったことを引き出して、学習したことをまとめる。</p> <p>* 円の面積を求める公式を適用する問題を解き、本時の学習内容を確認する。</p> <p>・ 知①円の面積は、（半径）×（半径）×（円周率）で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。</p> <p style="text-align: right;">【行動観察・ノート分析】</p> <p>* 本時の学習内容や自分の考えの変容、次時以降の学習の見通し、日常生活に生かしたいことなどについて振り返る。</p> |

8 本時の評価規準と判定基準

| 本時の評価規準【評価方法】 | 判断のポイントと指導の手立て |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>思②円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。</p> <p>【行動観察・ノート分析】</p> | <p>「おおむね満足できる状況（B）」と判断するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 円を等積変形してできた長方形の縦と横の長さについて、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、長方形の面積を求める公式を、簡潔かつ的確な表現に高めながら、円の面積を求める公式を導いている。 <p>「十分満足できる」状況（A）の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 円を等積変形してできた長方形の縦と横の長さについて、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、長方形の面積を求める公式を、簡潔かつ的確な表現に高めながら、円の面積を求める公式を導き、図や式を関連付けて説明している記述が見られる。 <p>「努力を要する」状況（C）と考えられる児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物やデジタルコンテンツを使って、円を等積変形してできた長方形の横の長さ、もとの円の円周の長さの半分が同じであることに着目し、長方形の面積を求める公式を、半径×円周の長さの半分と式変形することができるようにする。 |
| <p>態①円の面積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p> <p>【行動観察・ノート分析】</p> | <p>「おおむね満足できる状況（B）」と判断するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周の長さの半分と長方形の横の長さが同じであることに着目して、式変形をしようとしている。 <p>「十分満足できる」状況（A）の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周の長さの半分と長方形の横の長さが同じであることに着目して、より簡潔かつ的確な表現にすることができないかを考えながら式変形をしようとしている。 <p>「努力を要する」状況（C）と考えられる児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体物やデジタルコンテンツを使って、円を等積変形してできた長方形の横の長さともとの円の円周の長さの半分が同じであることに着目することができるようにする。 |
| <p>知①円の面積は、(半径)×(半径)×(円周率)で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。</p> <p>【行動観察・ノート分析】</p> | <p>「おおむね満足できる状況（B）」と判断するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 円の面積を求める公式を適用して、円の面積を求めている。 <p>「十分満足できる」状況（A）の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 円の半径を捉え、円の面積を求める公式を適用して、面積を求めている。 <p>「努力を要する」状況（C）と考えられる児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 円の面積を求める公式を適用するために、円の半径の長さに着目することができるようにする。 |